

平成30年度小学校算数科の指導の重点

【本県の課題】

- 問題場面を的確に捉え、数量の関係を図や数直線などに表すこと。
- 単位量当たりの大きさを求める式や求めた商の意味を理解すること。
- 示された情報から比較量、基準量、割合の関係を的確に捉え、判断した理由を数学的に表現すること。

【指導の重点】

- 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力を明確にすること。(指導計画作成の充実)
- 式や計算の意味等を確実に理解できるようにすること。(算数的活動のより一層の充実)
- 継続的な指導や学年間の円滑な接続を図ること。(学び直しの機会の充実)

【これから授業等で大切にしてほしい項目】

■指導計画作成の充実

※単元など内容や時間のまとまりを見通して、資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導を行きましょう。

- ・児童や学校の実態、指導の内容に応じ、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点から授業改善を図りましょう。

■算数的活動のより一層の充実

※事象を数理的に捉えて、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行しましょう。

- ・新学習指導要領では、従来の算数的活動は、数学的活動として改められました。これは、「児童が目的意識をもって主体的に取り組む算数に関わりのある様々な活動」という従来の意味を、問題発見や問題解決の過程に位置付けてより明確にしたものです。

■学び直しの機会の充実

※学年間の指導内容を円滑に接続させるため、児童の実態に応じて、適宜、練習の機会を設けたり、適切な反復による学習を位置付けたりして指導しましょう。

■移行措置期間中の留意点

※平成30年度は、小3、小4で新たに学習する内容が加わります。指導計画等に位置付け、確実に指導しましょう。

- ・小3、小4「接頭語(キロ(k)やミリ(m))についても触れる」
- ・小4「面積の単位とこれまでに学習した単位の間を考察する」

【具体的な指導例】

■本県児童の課題 (平成29年度「熊本県学力調査5年生」)

【ねらい】単位量当たりの大きさを求める式の意味を理解していること。(定着率48.8%)

【問題】右の表から、あといの式を書きました。

あ $12 \div 9$

い $5 \div 8$

あといの式は、何を表していますか。

ア Aの部屋の1人あたりのたたみのまい数

ウ Bの部屋の1人あたりのたたみのまい数

	人数(人)	たたみのまい数(まい)
A	9	12
B	5	8

イ Aの部屋のたたみ1まいあたりの人数

エ Bの部屋のたたみ1まいあたりの人数

■指導のポイント

以下に示す学習活動等を行い、単位量当たりの大きさを求める意味を理解できるようにすることが大切です。

※単位面積当たりの人数か、単位人数当たりの面積で比べるか話し合う活動

※それぞれの場面を図に表し、図を基に式を読み取る活動

【今後も授業で大切にしたい項目】

□「何を学ぶのか」が分かる「めあて」を板書し、解決の見通しをもてるようにする。

※「身に付けさせたい力」を学習指導要領に示された内容に基づいて確認しましょう。

□言葉や式、図、表、グラフを用いて表現(説明・記述)する活動を位置付ける。

※個人の考えをもったうえで、グループや全体でお互いの考えを表現する活動を位置付けましょう。

※思考を広げたり、深めたりするために発問を精選し、考える時間を十分に確保しましょう。

□「何を学んだのか」が分かる「まとめ」を提示する。

※児童の言葉や解決方法を用いて、指導事項に沿ってまとめましょう。

□適用問題や振り返りを位置付ける。

※全国学力・学習状況調査過去問題、県学力調査過去問題等を積極的に活用しましょう。

※一連の問題解決の過程を振り返らせましょう。